

令和 7 年 6 月 17 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K04995

研究課題名（和文）公共サービスをめぐる紛争の解決モデル：ラテンアメリカを事例として

研究課題名（英文）Conflict resolution over public goods provision in Latin America

研究代表者

大石 晃史（Oishi, Koji）

東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター・研究員

研究者番号：60814944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：ラテンアメリカでは水道などの公共財提供をめぐる紛争が社会運動という形で多く観察され、そのダイナミクスや帰結は多様性に富んでいる。本研究ではそれらをアクター間の相互作用の視点から理解することを目指した。メキシコで現地調査を行い、地方分権化が公共サービス官民連携の成否に与える影響について先行研究とは異なる関係性を指摘した。またボリビアに水戦争についてアクター間ネットワークの転換期を指摘し、経済エリート・地理的アンデンティティの役割を明らかにした。さらにアクター間ネットワークの密度の重要性を理論モデルから指摘した。本研究では以上のように公共サービス紛争について横断的に知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究ではボリビアおよびメキシコを中心に、ラテンアメリカにおける公共サービスをめぐる紛争についてアクター間の相互作用から理解を深めることができた。この我々の研究成果はより一般的なインフラ政策についても多くの政策的含意を有している。例えば、我々はメキシコシティにおける水道事業の官民連携（PPP）について調査した結果、PPPと地方分権化が両立しないという先行研究の見解とは異なり、地方分権化の手法を適切に選択することで両者を同時期に進めうる可能性を指摘した。日本国内でもインフラ再整備の必要性が叫ばれ、同時に地方分権化政策についても議論が高まる中、本研究の貢献は決して小さくないと考えられる。

研究成果の概要（英文）：Conflicts over public goods provision are frequent in Latin America, with various dynamics and consequences. This project aimed to understand their diversity through the interaction among political actors. We conducted fieldwork in Mexico and identified a new relationship between conflicts over public-private partnerships in water supply service and government decentralization, which is more positive than previous literature. We also conducted fieldwork in Bolivia and revealed the transition point of actor networks in the Water Wars and the role of the economic elite and regional identity in the dynamics. Furthermore, our analysis of a theoretical model demonstrated a novel effect of actor-network density on conflict dynamics. Our project contributed to a deeper interdisciplinary understanding of conflicts over public goods provision.

研究分野：計算社会科学

キーワード：公共財 公共サービス 社会運動 紛争 民営化 メキシコ ボリビア

1. 研究開始当初の背景

本研究では公共サービスをめぐる紛争について現地調査と数理的な分析を組み合わせ、そのダイナミクスの解明を試みた。水道や道路といった公共財の提供には、それをめぐる紛争がつきものである。特に公共サービス提供への民間セクターの参画が世界的に進む中、ラテンアメリカでは公共サービスをめぐる紛争が社会運動という形で多く観察されてきており、そのダイナミクスや帰結は多様性に富んでいることが指摘されてきた。ただし、社会運動論としての個別事例研究が豊富である一方で、上記の多様性について公共財提供をめぐる紛争をアクター間関係から統一的に捉える試みは蓄積が不十分であった。

2. 研究の目的

本研究では、ラテンアメリカにおける公共財供給をめぐる紛争について、それらがどのように発生・激化・解決し、その紛争ダイナミクスとアクター間関係はどう相互作用するのか、現地調査と数理的・理論的考察を併せて分析することが目的である。公共財供給をめぐる紛争は社会学・行政学的に非常に深刻な問題であり、本研究ではラテンアメリカの事例を主たる分析対象としたが、近年は日本国内でのインフラ再整備などの重要性が注目されていることなどからも明らかかなように、公共財供給をめぐる紛争は特定の地域を超えた現代社会一般で避けられない問題であり、本研究においても公共サービス紛争一般に敷衍し得るような知見を目指した。

3. 研究の方法

本研究の手法として、第一に現地調査が挙げられる。具体的には、メキシコおよびボリビアにおける水道事業をめぐる問題を調査するため複数回の現地調査を実施した。現地調査により紛争アクターの関係性がどのように変化したのか、紛争そのものがどのように発展したのか、第三者の報道だけでは得られない当事者の主観を含めた詳細な情報を取得した。第二に、水資源・紛争に既存のデータベースについても分析を行った。例えば、水アクセスに関するDHSデータセット、物理的水資源に関するMEIRT-Hydroデータセットなどを他の社会経済変数データと組み合わせ、分析を行った。これによって事例の比較などで前提となる一般的な水問題をめぐる構造を整理した。第三に、紛争ダイナミクスに関する数理モデルを構築し、アクター間関係性と紛争の発生・継続・激化などとの間にどのような関係が有りうるのか分析を行った。例えば、アクター間ネットワーク上での協力行動・敵対行動とネットワークの相互作用モデルであるネットワーク上の間接互惠性モデルから、アクター間関係の密度と紛争の収束との関係について分析した。

4. 研究成果

まず、メキシコでの現地調査ではメキシコシティの水道事業の官民連携（PPP）に関して、アクター間の政治的相互作用の観点から分析を深めることができた。当該事業では、段階的アプローチを用いて、料金収受の民間委託からスタートしたが、最終的に水道サービスの改善に向けたPPPの段階までたどり着くことができず頓挫した。先行研究では、インフラサービス向上のために同時期に行われた地方分権改革とPPPを同時に行うことが政治的に困難であることが指摘されており、メキシコシティもそうした事例の一つであると考えることができたが、一方で、メキシコシティの場合は地方分権自体が、その理念に基づいた改革が実施されなかったことがPPPに対して悪影響を及ぼしていることが分かった。従って、地方分権改革とPPPが理念上同時に実施することが難しいというわけではなく、同時実施を図る場合は地方分権改革を適切に行うことが求められることが政策的含意として導かれた。

次に、ボリビアにおける現地調査では、第一回ではボリビア東部サンタクルス県を中心に2ヶ月間の調査を行い、サンタクルス県の水道事業が大きな紛争に発展しなかった理由について、極めて優れた水道協同組合の機能に注目し、水道協同組合のリーダーへのインタビューから、サンタクルス県の経済発展の歴史、それに伴う経済的エリートの誕生、彼らの地理的アイデンティティーが果たした役割を明らかにした。第二回目では、これまで研究の蓄積の乏しい第二次水戦争の資料の所在を明らかにすることができた。加えて、ボリビアの水戦争についてアクター間のネットワークの時間変化の観点から時系列をネットワークデータとして整理し、その紛争ダイナミクスを可視化し直すことで、ボリビア水戦争の転換点について新しい提起を行った。

さらに、紛争の時間発展モデルとして、ネットワーク上の間接互惠性モデルについて数値シミュレーションを行い、ネットワーク密度に対して構造バランスが相転移を示すことを明らかにしたつまり、アクター間のネットワークが非常に密である場合と非常に疎である場合は争いが一定の対立構造が固定化する一方で、中間領域では協力関係と対立関係が流動化した状態が準安定的に存在することが分かった。相転移が見られるということは、アクター間の密度がごく僅かに変化するだけでも紛争ダイナミクスが大きく変化することを意味しており、上記の事例で注目したアクター間ネットワークの重要性が理論モデルによっても示唆される結果となった

本研究では、以上のようにアクター間の相互作用・アクター間のネットワークという視点から、ラテンアメリカでの公共サービスをめぐる紛争について新しい知見を得ることができた。事例間および事例・理論間の比較や統一的なモデルとして落とし込む作業については研究期間中に十分な整理ができなかった部分があり、今後の研究における課題とはなったものの、メキシコおよびボリビアを中心に重要な公共サービス紛争の事例について、その多様性の背景にあるメカニズムの理解を詳細な現地調査と数理的な観点からの整理によって一定程度深めることができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 和田毅、三浦航太	4. 巻 56
2. 論文標題 水紛争を持続可能な開発目標に沿った形で解決できるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ラテン・アメリカ論集	6. 最初と最後の頁 35-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50978/laronshu.56.0_35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 K. Oishi, T. Shimada, S. Miyano, and K. Kaski	4. 巻 104
2. 論文標題 Balanced-imbalanced transitions in indirect reciprocity dynamics on networks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Phys. Rev. E	6. 最初と最後の頁 24310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1103/PhysRevE.104.024310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 0件/うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Rena Nishio, So Morikawa, and Koji Oishi
2. 発表標題 Interference of Decentralization with PPP in the Water Sector and Shifting Equilibria in Service Quality and Tariffs: A Case Study of Mexico City
3. 学会等名 International Association of Schools and Institutes of Administration (IASIA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rena Nishio, So Morikawa and Koji Oishi
2. 発表標題 Governance of Regulators Regarding Water Services: The Impact of Political Interference on Regulation under Private Concession in Latin America
3. 学会等名 Lien Development Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wada, Takeshi
2. 発表標題 Studies of Repertoires of Contention in Latin America
3. 学会等名 LASA2021: XXXIX International Congress of the Latin American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和田毅
2. 発表標題 ラテンアメリカにおける水紛争
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiromi Makita, Atsushi Koyama, So Morikawa, and Koji Oishi
2. 発表標題 Evolution of Actor Relations in the Water War Movement in Bolivia
3. 学会等名 The 79th Annual Midwest Political Science Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Wada
2. 発表標題 Water Conflicts from a Panoramic Perspective and under a Magnifying Glass
3. 学会等名 SDGsシンポジウム：気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	森川 想 (Morikawa So) (10736226)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・講師 (12601)	
研究 分担者	和田 毅 (Wada Takeshi) (20534382)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究 分担者	牧田 裕美 (Makita Hiromi) (00882862)	東京大学・大学院総合文化研究科・特任研究員 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------